古城

第　43　号
＝発行者＝
茨城県立江戸崎総合高等学校
同窓会広報委員会
TEL 029-892-2103
＝印刷所＝
倉沢印刷株式会社

ごあいさつ

同窓会長
山岡恒夫
江戸崎高等学校
（昭和43年度卒）

　会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃からの、皆様方の同窓会に対しましてのご支援ご協力に心から感謝いたしております。

　江戸崎総合高校では、新型コロナウイルス感染症対策を十分したうえで、今年度も生徒たちは素晴らしい足跡を残しました。茨城県農業関係高校「学校産・地元産食材」を使ったスイーツコンテストで、本校生徒が考案した作品が、最優秀賞を受賞しました。

　稲敷市役所では、生徒たち製造のイチゴジャムやシフォンケーキを販売しました。

　十二月には、江戸崎ショッピングセンターパンプ店内にポインセチアとプリンセチアを用いたタワーを作り、解体後にはお客様や従業員の方々に配布し、大変喜ばれました。

　新型コロナウイルスは、日常の暮らしの中で見失っていた真に大切なもの、なくてはならないものの価値に気づかせてくれました。

　看護師さんは、病院では、感染しないよう細心の注意を払いながらコロナ患者の世話をし、家でも感染させないよう細心の注意をしながら家事をしています。辛い思いを抱えながら、患者と向き合って働いています。

　ある看護師さんは、車イスで退院したおばあさんの言葉が忘れられないといいます。

「あなた達がいなかったら元気になれなかった。ありがとう」心の底から湧き上がった「ありがとう」の一言が、看護師さん達が困難を乗り越える力になっているのです。

「生きているということは、誰かに借りをつくること。生きていくということは、その借りを返してゆくこと」

　作詞家、永六輔の言葉です。私たちは、地球やそこに生きる生き物から大きな借りを作っているのです。

　植物が酸素を生み、森林が水循環のバランスを整えるなど、生命の生存基盤は多くの生き物の営みによってささえられているのです。

　地球が奇跡の星といわれるのは、海の存在をはじめとする、いくつかの奇跡的な条件を備えていたからです。それで人間は生きていける。

　地球から借りをつくっているのです。だから「生きていくということは、その借りをかえしてゆくこと」なのです。

　では、その借りを私たちはどのように返したらいいのでしょうか。自分に与えられた環境で、自分の出来ることをきちんと行っていくこと。

　今であれば感染症対策をしっかりとするということが、借りを返してゆくことになるのではないでしょうか。

　コロナに負けずに、会員各位の、各方面でのご活躍と、母校のご発展を祈念いたしましてご挨拶といたします。

貴重種『一葉の松』

　通常の松の葉というのは、二本で一束ですが、一葉松は一本しかない松のことです。それが我が校に植えられているのをご存じでしょうか。

　正門脇に植えられている、その一葉松は、初代唐崎の松の直系のもので、今となっては大変貴重な松となります。

　初代唐崎の松とは、現在の滋賀県大津市唐崎に、舒明天皇が植えさせたとされています（諸説あります）

　それから千年近くの歳月が流れた天正九年（一五八一年）大風により倒れて枯れてしまったそうです。

　その時、唐崎に近い近江坂本に坂本城を築いた明智光秀は枯れた松を惜しんで

われならで
　誰かは植ゑむ
　　一つ松
　　　心して吹け
　　　　志賀のうら風

という歌を残しています。

万葉集では

ささなみの
　しがのからさき
　　さきくあれど
　　　おおみやひとの
　　　　ふねまちかねつ

と柿本人麻呂が歌っており、

古今集では

唐崎の
　松は扇の要にて
　　漕ぎゆく船は
　　　墨絵なりけり

と紀貫之が歌っています。

　そんな大変珍しく貴重な松が、江戸崎高等学校の第一回卒業生である、牛久市在住の永井和夫さんから二〇一八年三月に寄贈されました。

　江戸崎総合高等学校に立ち寄った際には、ぜひ「一葉松」を見ていって下さい。

地域と共に

校　長
藤田　和文

同窓会の皆様には日頃より本校の教育活動に多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。茨城県立江戸崎高等学校、茨城県立江戸崎西高等学校が統合され、本校は十六年目となります。創立二十周年記念事業に向けての準備を進めて行きたいと思っています。生徒たちは「至誠」「創造」「飛躍」の校訓のもと、日々充実した学校生活を送っています。

昨年度末三月より新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、休校措置による教育活動の休止を余儀なくされましたが、五月末からの分散登校を経て、六月から通常登校となりました。現在、換気や消毒、マスクの着用の徹底を心がけております。

この新型コロナ感染防止の観点から学校行事や部活動では、生徒が目標としてきた大会の多くが中止や縮小になってしまいました。生徒のこれまでの努力と成果を無駄にすることなく、次の目標に向け歩ませていかなければと痛感しました。今回の授業への対応では、情報の分野で半ば必要に迫られ、オンライン学習やリモートワークなどのICTを活用したホームルームや授業動画のコンテンツの作成などは新しい学びのあり方を模索することが出来ました。

今日の高等学校を取り巻く状況を見ると、少子高齢化や産業構造の変化、グローバル化、SDGsやAIなどの技術革新に向けた人材育成が求められています。そのためには、文章や情報を正確に解き対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力、価値を見つけ出す感性と力などを身に付け、新たな時代を生き抜く生徒を育てていかなければなりません。学校としましても、大学等との連携、専門家派遣事業やインターンシップ、地域貢献などを通じて人材育成をして参りたいと思います。

同窓会員の皆様方には今後とも本校が稲敷地域に存在する唯一の県立高等学校として、地域に根ざし、共に歩み、更なる発展がみられますよう、ご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

雑　感

参　与
木村　謙一
江戸崎高等学校
(昭和17年度12月卒)

私が江戸崎総合高校の前身である農学校を卒業し、教職員を経てからすでに八十年の歳月が過ぎ去りました。

私は、三年前より、これまでの人生を振り返り、時代と共に生き、その間に見聞きしたこと、経験したこと等について、記憶の薄れぬうちに何とか、後世に残しておきたいと思い立ち、「自分史」を書き始めました。

まだ途中ではありますが、参考までに、目次を記してみたいと思います。（別紙参照）

最近は、母校ともご無沙汰致しておりますが、一番の思い出は、百周年記念誌の「古城百年」に関する資料集め、執筆・編集作業等があります。当時、本部役員であった皆さん方は今どうしておりますでしょうか。山岡同窓会長さんには茨城県議会議長としての要職までも務められ、大変ご苦労様でした。

また、昨年は、仲代達也さんの父親に関する資料調査や録画録り、ビデオ出演等大変お世話になりました。良き思い出として残っております。

また、現在私は介護老人保健施設にお世話になっておりますが、たまたま同室に美浦トレーニングセンターに務めておられた、丸目さんという方にお会いしました。

江戸時代に活躍した丸目蔵人（まるめくらんど）という馬術の名人がいましたが、その方の子孫ということです。

現役時代は獣医さんとして美浦トレーニングセンターに務めていたそうです。

さて、総合高校創立十周年記念誌『あゆみ』に武藤雅さんという方の記事が載っておりましたが、彼は在学中、全日本高校馬術選手権大会に出場し準優勝を果たした方だそうですが、先日、偶然にもテレビでお見かけしました。

丸目さんの話では、経験を積めば中央競馬会において大成されるでしょうとのことでした。楽しみにしております。

また、昨年の茨城国体において、江戸崎総合高校馬術部の尾野綺乃選手が少年二段階障害飛越競技にて優勝。

少年団体障害飛越では、野沢友梨有・尾野綺乃組が四位入賞を果たしております。

ありがとう選手諸君、江戸崎総合高校馬術部の今後の活躍を期待しております。

※参照

『自分史』

目次（執筆終了分）

1. 出生から小学校の頃
2. 農学校生徒の頃
3. 第一回東京遊学の頃
4. 学徒出陣と兵隊の頃
5. 終戦・改革と世相
6. 学制改革と新生高校の誕生
7. 農学部在学中の頃の思い出
8. 江戸崎高校の教員時代
9. 江戸崎西高の教員時代
10. 西高退職から現在まで
11. 郷土史と町誌編纂の頃
12. ①医療史②町誌③総合高校年誌等について

※これから執筆予定分

・木村家ゆかりの人々
・自分史関連資料集
・参考資料
・協力者
・あとがき

昭和40年代頃の
江戸崎高等学校

農業教育と我が教員人生

参　与
羽生　昭男
江戸崎高等学校
（昭和 52 年度卒）

この度、令和二年三月三十一日に茨城県立水戸農業高等学校長を退職し、現役の教員生活に別れを告げました。

在職中、同窓会の皆様には大変お世話になりました。教員生活の土台は江戸崎高校在学中の農業実習にあります。

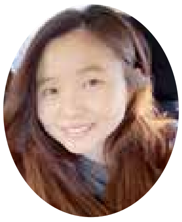
当時は甘藷や落花生の栽培、水田で稲の栽培など農業実習を通して体を使って働く事の大変さ、面白さを学びました。江高で農業を学び、大学で農業を学び、職業に農業科の教員の道を選び、農業高校の校長として農業教育に大きく関われたやりがいのある教員人生でした。

教員のスタートは昭和五十七年、農業学科が学べる鹿島高校の常勤講師でした。当時の校長、教頭が江戸崎の先輩である故糟谷校長、故真家教頭で何かと縁を感じたものです。糟谷校長は「鹿島は江戸崎でもっている」と誇らしげに威厳のある発言をしておりました。これは、「鹿島高校の学校経営は江高出身の校長、教頭が実権を握っている」という趣旨の発言だったように思います。同時に後輩に対して「若いの、これから頑張れよ」と激励だったようにも思います。県内の農業高校で常勤講師を三年間経験した後、昭和六十年に農業科教諭として採用され、再び鹿島高校が勤務となりました。この頃、間もなく県教育委員会の指導で十四校の農業高校が七校に半減するという事態となりました。私も、農業科教員として継続を希望しておりましたが、平成元年に江戸崎高校へ理科教諭として異動となりました。しかし、同僚教員の農業教育を肌で感じながら「早く農業科教員に戻りたい」と強い希望を持ち、六年後の平成七年、鉾田農業高校へ農業科教諭として戻ることが出来ました。鉾田農業高校では十八年間、農業教育に情熱を持ち続け、精一杯邁進をして参りました。平成二十五年に統合後の江戸崎総合高等学校の教頭として、江戸崎の先輩である第五代根崎校長に仕えることになりました。教頭時代の平成二十六年十一月十五日に実施された江戸崎総合高等学校創立十周年事業の推進役として携われたことが思い出として残っています。

平成二十八年四月に江戸崎総合高等学校第七代校長に任命され、平成三十年に水戸農業高等学校に転出後、この度の退職を迎えました。これまで多くの記念すべき事業に携われたことは山岡同窓会長はじめ、同窓会関係者各位皆様のご支援、ご協力の賜と思っております。私の教員人生は高校で三年間、理科教諭で六年間、教頭で三年間、校長で二年間、合わせて十四年間、江戸崎でお世話になりました。節目、節目で江戸崎との縁を感じ、多くの先輩方からご指導をいただきました。

江戸崎総合高等学校の益々の発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

言　葉



副会長
内埜　知美
江戸崎総合高等学校
（平成 19 年度卒）

あの頃、長いなぁと思っていた授業の時間や、終わってほしくないと思っていた夏休みは、アッという間に終わっていたのだなぁと思う。

高校生活での三年間は長い人生の中のほんの短いもので。今日と明日のことしか考えていなかった日々や、春の慣れない教室、夏のプールの匂いと下敷きを仰ぐ音、文化祭に向かって毎日遅くまで残った夜、冬のストーブの匂いと廊下の寒さ、そんな何気ない毎日が本当はかけがえのなかった日々だったんだなと今は思います。でもこの事に気付けるのは卒業した後なんです。あの貴重な時間を走り去るように過ごしていたんですね。

あの頃、先生が言っていたことを今でも思い出します。「興味を持ったら一度はやってみるといいよ。嫌だったらやめればいいし、どうにでもなるから」この言葉は、まだ十代だった私に衝撃を与えました。高校生から見た三十代の先生は、ずいぶんと大人に見えました。「どうにでもなる」なんて言えない年齢なのではないかと思ったのを今でも覚えています。ですが実際にあの時の先生と同じくらいの年齢になった今、どうにでもなると思えるようになりました。何かを考えた時、悩んだ時、迷った時は、大丈夫。「どうにでもなる」と自分をリラックスさせ、同時に心が強くなるのを感じています。あの時、先生は何気ない会話の中で言った一言だったかもしれないけど、その一言は、今の私を支えてきました。

先生は忘れているかもしれないけど、私にとっては心に残る一言でした。

言葉というのは不思議で、強くなれたり弱くなったりと、人の心を変える力を持っています。今の高校生達も、心を支えて強くしてくれるような言葉に出会えるといいなと思っています。

気持ちはあの頃のまま

松本　稔
江戸崎西高等学校
（昭和52年度卒）

　昭和五十三年三月、江戸崎西高等学校三年E組の面々は無事に卒業しました。

　そして、二〇二〇年一月、卒業して四十二年後にまた集いました。その間、何度か集まってはいましたが、還暦を迎えた当時の西高生は、それぞれに色々な経験を重ねて、皆いい表情で再会しました。

　ちょうどお正月休みなので実家に帰省している人も多いと思い皆に声をかけました。もちろん、正月早々仕事の人や家族で出かけている人もいるので全員集合とはなりませんでしたが、男性十名、女性八名、総勢十八名での還暦クラス会が開催されました。

　クラス担任の先生や、何名かの仲間は鬼籍に入られてしまったので、非常に寂しく思いますし、それだけ時が流れたのだなと思いました。

　あの頃高校生だったクラスのみんなは年齢こそ重ねましたが、気持ちはあの頃のままで、すぐに思い出話しや近況報告で盛り上がりました。

　大人になる一歩手前の多感な時期に、共に語り、悩み、笑った仲間達は生涯の友なのだなとしみじみ感じました。

　今がまだコロナ禍の中、思うような生活ではない状態ですが、互いの健康を気遣いながら、オリンピック開催年にまた集まろうとなりました。東京オリンピックは二〇二一年に延期になったので、早速今年も集合なのかな？

　冬季オリンピックもある事を考えると二年毎に集まれるってことでしょうか。（笑）

　同じ高校を卒業した同窓生は生涯の友だと思います。

　いま江戸崎総合高等学校で出会い、高校生という大切な時間を共に過ごした友と、何年後か、何十年後かに会ったとき、思い出を語り合う時があると思います。

　その時に、母校を少しでも気にかける事が出来れば、何よりのことだと思います。

あれから四十年

菱木　明美
江戸崎西高等学校
（昭和55年度卒）

　私は、昭和五十三年四月、美浦トレーニングセンター開場の年に、江戸崎西高等学校に入学しました。

　当時、道路は今のように整備されていませんでした。

　自動車も通ることが出来ない獣道のような山道を、泥が絡まり動かなくなった車輪の泥を枝で落としながらも、毎日楽しく自転車を押して通ったものでした。

　誰が教えてくれたのか、どうしてその道を知ったのかは覚えていませんが、きっと近道だったのでしょう。

　高校生時代の懐かしい思い出は、倉敷～高松～京都を巡った修学旅行です。川沿いにレトロな町並みを望む倉敷美観地区を歩き、美術館を見学へ。そして、フェリーで四国高松に渡り、長い石段をやっとの思いで上がり、黄色い㊎マークのお守りを買った「金刀比羅宮」、国の特別名勝にもなっていた、日本一小さな県の日本一大きな庭園「栗林公園」、そして人生初のうどん県で食べた、本場さぬきうどん、京都では嵯峨野の竹林を歩き、東映太秦映画村ではスターに会えるかもしれないと胸ときめかせて巡りました。残念ながら会うことはありませんでしたが、友と一緒の毎日は忘れられない思い出となりました。

　先日、偶然にも近所に住む高校時代の友人から、「とんぼちゃんという名前の歌手が西高のステージで歌ったことを覚えている？」と連絡がありました。当時、聴いていたはずの私ですが、歌手の名前すら初めて聞く思いで、全く覚えていませんでした。

　その他にも、全日本バレーボールの松平康隆監督に講演して頂いたり、予餞会等には夫婦漫才の春日三球・照代にも来て頂きました。

　現在の江戸崎総合高等学校の元気一杯な生徒達を見ていると、当時の自分や旧友の姿と重ね合わせていることに気付かされます。歳を重ねたせいかもしれませんね。

　コロナ禍で、生活のすべてが変わってしまいました。早く終息をして、同級生と出かけたり、あの頃の思い出話をゆっくりしたいものです。

校内だより

活躍の場

特別活動部長　相良　真博

新型コロナウイルス感染症により、本年度の学校行事は大きく影響を受け行事の中止や延期、変更を余儀なくされました。生徒の思い出や活躍の場を作ることができないか、生徒と特別活動部の職員でアイデアを出し合い、例年とは違う、十八個の新たな取り組みを行いました。

○委員会活動

ボランティア委員会では二つの取り組みを行いました。「茨城県新型コロナウイルス感染症医療従事者応援金」の募金活動を行い、十五名の生徒が五日間一五、三五六円を集め、県の事業所へ届けました。二つ目に「手作りマスク寄付活動」を行い、約六十枚程度作成し「ケアセンター阿見」と稲敷市の「水郷荘」へ寄付しました。水郷荘へは生徒が直接持参し、その様子を稲敷市の広報誌「広報稲敷」九月号で取り上げて頂きました。

○部活動

部活動では分散登校中には部員を集めて活動が出来ませんでした。三年生最後の大会が中止になるなど生徒の練習管理やコミュニケーションやモチベーション維持に課題を感じました。その経験を踏まえて、筑波大学学生の部活動ノートのアプリ開発研究に協力し、実験的に生徒会、バスケットボール部、硬式野球部が取り組んでいます。

○応援委員会

夏の甲子園を目指す県予選が中止になったことにより、応援団の活動も中止となりました。大会での応援は出来なくなりましたが、来年度の後輩に向けて応援の振付を吹奏楽部の演奏と共に動画に撮り、伝統を引き継ぐ活動を行いました。練習での活気のある声が学校内に響きました。

○学校行事

文化祭の実施を目指し計画しましたが、三年生の就職試験が十月に延期されたことにより、十一月に延期しました。その時期と新型コロナウイルスの「第三波」が重なり、内容の変更を余儀なくされました。活動の場所を分散、短時間にし「江総コンテスト」として文化的活動の時間を実施しました。クラスでは各クラスで黒板アートとオリジナルクリスマスツリーを制作し競い合いました。ステージ発表は体育館で人数を制限し、吹奏楽部の演奏、コスプレショー、ダンスやバンドの発表を行いました。体育館では見られない生徒のためには、インスタグラムやＹｏｕＴｕｂｅを使い、情報処理室やスマートフォンでライブ中継を行いました。制作係はステージパネル、看板、モニュメントを作り、制作風景をインスタグラムを使って生徒へ情報発信し、参加意欲を高めるために活用しました。写真部が江総コンテストの写真を撮り、情報処理部が編集して、学校のＰＲ動画を作成しました。

ステージ発表などではドローンで撮影し、普段撮れない映像を残すことが出来ました。

○生徒会活動

生徒会では毎月登校指導の日に会わせて挨拶運動を行い、マスク着用の啓発活動も併せて行いました。放課後には学校内外の清掃活動を行いました。ハロウィンの時期には仮装をし、集めたゴミ袋をお化けに見立てた「ハロウィン清掃活動」を企画しました。高校生ＩＣＴカンファレンスに参加し、オンライン上で他校の生徒とディスカッションを行いました。

○情報発信

以上の活動の様子を学校ホームページに積極的に掲載し、学校外へ情報発信をしております。学校内では生徒向けに昇降口モニターを通じて、スライドを作成し学校生活や行事への積極的な参加を促すために活用しています。

今年度に関しては例年通りの活動をすることは出来ず、苦しい一年でした。逆風の状況の中でもこれだけ多くの新しい活動が出来たことは本校生徒の活力とアイデアの結晶だと思います。今年度行った新たな取り組みと、以前行っていた活動を融合し、江戸崎総合高校の生徒の活躍する場を作っていこうと思います。

無限の可能性

生徒指導部長　辻　尚宏

昨年度から引き続き、今年度も生徒指導主事として勤務しております。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、例年以上に多くの関係者のご理解とご協力をいただきながら生徒指導を行っております。

この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

生徒が本校を巣立ち、活躍する社会は、ＡＩが社会の大きな役割を担い、多くの仕事を果たす社会です。そのような社会では、他の誰とも異なる「個性」を発揮しなければ生き残れません。

では、生徒をそのような社会に送り出すために、我々はどのような指導をするべきなのでしょうか。生徒は無限の可能性を秘めています。その可能性を少しでも引き出し、たくましく人生を生き抜けるように、「素地」を育成することが生徒指導の使命であると考えております。基本的生活習慣や規範意識等は当然ですが、個性を磨くことや困難さに立ち向かう情熱の大切さ等を指導する所存です。

生徒指導主事としての私一人には、大きな力はありません。ただ、私には本校生徒指導の在り方に共感し、一緒に職務に向かう仲間がおります。また、日頃から本校の生徒指導方針を理解して下さるPTAや同窓会の方々や地域の方々がいらっしゃいます。私一人では生徒の無限の可能性を伸ばすことはできませんが、PTA・同窓会・地域の方々を含めた「チーム学校」で生徒指導をしていければ、必ず生徒の可能性を広げることが出来ると確信しております。そして、そこにこそ本校の「無限の可能性」が秘められていると思っております。今後とも、同窓会の皆様にはご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い致します。

進路状況報告

進路指導部長　寺口　慎吾

今年度は、特に就職活動の面で新型コロナウイルスの影響が大きく出ました。求人票の開示については例年通り、七月一日からでしたが、七月中に届いた求人票の数は、昨年と比較すると八割程度となり、特に成田空港関連の求人数は半減しました。

応募書類提出・選考試験の開始は、例年より一ヶ月遅れとなり、それぞれ十月五日、十月十六日からに変更されました。このことにより、職場見学会や応募先選定の期間には余裕が出来ましたが、内定をもらえる時期も一ヶ月遅くなり、今年度の傾向としては、「簡単には内定をもらえない」生徒が多かった、ということが挙げられます。

　というわけで、十一月三十日現在の学校からの紹介による「就職内定率」は、八十七%にとどまっています。

　まだまだ就職活動真っ最中の生徒がおりますので、現在奮闘中であります。

　進学については、出願の日程変更等がありましたが、日程面以外は例年と変わらず、といったところです。

　進学希望者数五十七名中、大学八名、専門学校四十一名、職業訓練学校三名が合格しています。それぞれの一般入試を控えた数名が、現在受験勉強に励んでいるところです。

　今年は進路指導にとっても特別な年となりましたが、この経験を踏まえ、結果を検証して、これからの進路指導に生かしていくことが出来ればと考えています。

　最後に、同窓会の皆様の益々のご活躍を祈念すると共に、今後もご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

二〇二〇年度 進路状況

主な進学先	主な就職先
流通経済大学	陸上自衛隊
日本ウエルネススポーツ大学	アイリスオーヤマつくば工場
江戸川大学	阿見ゴルフクラブ
開智国際大学	エスアンドエスプロダクツ
川村学園女子大学	江戸崎カントリー倶楽部
聖徳大学	カスミ
茨城県立農業大学校	関電工
県立土浦産業技術専門学院	ザ・インペリアルカントリークラブ
宮本看護専門学校	ジェイ・エス・エス
つくば栄養医療調理製菓専門学校	SHOEI茨城工場
筑波研究学園専門学校	城東テクノ
つくばビジネスカレッジ専門学校	新洸化成
つくば国際ペット専門学校	つくばセントラル病院
アジア動物専門学校	日鉄テックスエンジ
いばらき動物専門学校	日本食研ホールディングス
パリ総合美容専門学校柏校	日本テキサスインスツルメンツ
国際理工情報デザイン専門学校	ネスレ日本
新東京歯科技工士学校	フジシール筑波工場
東京福祉専門学校	美浦ゴルフ倶楽部
東京環境工科専門学校	雪印メグミルク
東京モード学園	芳源マッシュルーム
	他二十四社

（二〇二〇年十二月四日現在）

メカニカルテクノ系列

メカニカルテクノ系列主任　渡邉　智史

「変わり続ける社会」というフレーズをよく耳にする時代ですが、本校の生徒の人間性も少しずつ変わってきているように感じます。

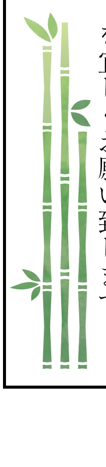
　少し前のような元気のある生徒というよりは、今は受動的で落ち着いた生徒が多くなってきているように感じます。

　メカニカルテクノ系列を選択する生徒も同様で、授業や実習の形も少しずつ変えていく必要があります。

　実習では、例年生徒の特性や社会のニーズに応じて、実習のテーマを試行錯誤してきました。その中で、今年度から「自由製作」という実習を取り入れました。学んできた技術を活かして、グループで一つの物を製作するという内容です。受け身な生徒が多くなっている中、自分の身の回りに必要な物は何かを考え、班のメンバーと協力しながら製作を行います。作った物が人の役に立つ経験を経て、ものづくりの楽しさを体験してほしいと思い設定した実習です。今まで行っていた実習も時代や生徒に会わせて、アップデートを重ねながら試行錯誤を繰り返して、生徒が社会に出たときに役に立つ授業作りに励んでいます。

　また、今年度はコロナウイルスに苦しめられた年度となりました。昨年度三月から今年度五月までの間、生徒が登校しての授業が実施できなくなり、実習の方も大幅な予定変更を余儀なくされました。特に今年度の三年生は、二年次の作品が未完成のまま、進級した生徒や自動車整備士資格の規定時間に達するか怪しい生徒もいます。学校が始まってからも、削られた時間の中で実習を進めなければならず、コロナウイルスが学校生活に及ぼす影響はとても大きいと感じています。

　変化し続け、何が起こるかわからない世の中で、生徒が社会に出たときに対応できる様な指導を出来る教育体制を整えることが重要だと考えます。江総の今までの積み重ねである同窓会の方々の力を借りながら、今後の新しい時代を切り拓いていく生徒を育てていきたいと思っておりますので、今後ともご協力のほどを宜しくお願い致します。



年次だより

一年を振り返って

一年次主任　大滝　慶人

　今年度は一八九名の生徒が江戸崎総合高等学校へ入学をしました。生徒・教員ともに「どんな高校生活が始まるのだろうか?」と期待に胸を膨らませていたところに新型コロナウイルスの影響により、入学して早々自宅学習を余儀なくされました。五月二十七日からやっと分散登校が始まり、全員が集まり、スタートしたのは予定よりも二ヶ月遅れとなりました。

　登校してきた生徒たちを見ていると、「やっと学校が始まった」という晴れやかな表情をしている者や「二ヶ月も遅れてのスタートで友達が出来るかな?」という不安な表情をしている者など様々であったことを記憶しています。

　そんな難しい困難に直面しながらも、江総での高校生活を楽しんでいる様子が見られるようになりました。

　一年次としては入学当初から「〝向上心〟をもって何事にも取り組み」、「他人への〝気遣い〟を意識した行動をしよう」ということで生徒たちに伝えて参りました。

　これからの時代はＡＩが更に発達していくことが予想されます。そういった時代を生き抜くためには、時代についていくための〝向上心〟や、機械では出すことのできない、人としての〝温かさ〟や〝気遣い〟が必要不可欠だと考えます。早いもので江総での一年間が終わろうとしています。生徒たちには卒業後に活躍する人材となるため、これらのことを伝え続けていきたいと思います。

　二年次からは各系列に分かれ、個人の興味・関心に応じた学習を中心に進めていくことになり、自らの進路実現を視野に入れながらの生活を送っていかねばなりません。高校生活の〝慣れ〟が〝怠け〟につながっていかぬよう、学校とご家庭が〝共に〟手を取り合い生徒の成長を〝育む〟「共育」を引き続き行っていきたいと思っております。

　これからも保護者の皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りながら子どもたちの将来が明るいものとなるよう、全力で取り組んでいきます。

　最後に、江戸崎総合高等学校が更なる発展を遂げるにあたって、同窓会の皆様には何かとご支援ご協力を頂くことがあるかと思います。今後とも温かな目で生徒、学校を見守って頂き、ご指導お願い申し上げます。

この一年を振り返って

二年次主任　由波　俊幸

　二年次生は、本年度から五つの系列に分かれ、総合学科の特性を活かしたカリキュラムが本格的に始動しました。コロナ禍で休校・分散登校が長く続き、年度当初、生徒の間には例年にない不安や戸惑いもみられました。しかし、夏休みを終える頃には新しい友人や新クラスの雰囲気にも慣れ、中堅年次としての自覚も芽生えてきたようです。

　現在では、多くの生徒が目標を持って授業や実習に熱心に取り組むなど大きな成長が見られ、感慨を深くしています。

　さて、本年次では、「時と場をわきまえ、自ら考え、自ら責任を持って行動できる生徒」を目指す生徒像に掲げ、生徒自身が、自ら学ぶ姿勢を身につけるとともに、希望する進路に応じて目標を実現できるよう、職員一同、昨年度から取り組んでおります。

　今年度は特に、①基礎学力の定着と向上、②進路意識の啓発と確立の二点を集中事項として指導に努めてきました。そのため、日々の授業内容の一層充実を図るとともに、各種進路ガイダンスを増設し、生徒が自己の将来を見つめ、思考を深める機会を拡充しました。

　今後も引き続き、各学級担任を中心に生徒との面談を重ねながら、生徒一人ひとりの興味・関心と向上心を引き出しつつ、変転著しい今日の社会を力強く生きてゆく上で求められる人材の育成を目指してゆく方針でおります。

　ところで、学校教育における諸活動は、目下、コロナ禍による大きな制約の中にあります。高校生活で最大の行事の一つでもある修学旅行についても、生徒たちの安全安心を最優先に、中止の判断に至りました。苦渋の決断ではありますが、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

　最後に、生徒個々の学習習慣・生活習慣の維持向上のためには、ご家庭はもとより、同窓会や地域の皆様と学校との連携に立った継続的な指導が不可欠であります。同窓会の皆様には、今後とも引き続きご指導・ご協力をいただけますよう、改めてお願い申し上げます。

良く頑張りました

三年次主任　飯塚　親弘

　今年度は三年生にとって卒業後の進路を決定する重要な年度であるにもかかわらず、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、四月・五月の約二ヶ月間が自宅学習となりました。その後、分散登校を経て六月にやっと通常通りの学校生活が再開されましたが、学習や就職活動の遅れが大変心配されました。

　学校再開後は、大学・専門学校・就職と、それぞれ希望の進路に向けて、担任・副担任の先生による連日の熱心な指導、時には管理職や年次外の先生の協力を頂きながら、課外授業や履歴書の作成、面接練習など夕方遅くまで残って精力的に活動していました。

　そういった生徒の皆さんの頑張りによって、ほぼ希望通り合格や内定が頂けました。良

く頑張りました。
　入学式を迎えてから早いもので、間もなく三年が経とうとしています。生徒の皆さんは立派に成長しました。私も多くの生徒と関わり、多くのことを学び経験しました。充実した毎日、思い出深い三年間でした。私自身、この三年生の卒業をもって定年退職を迎えます。江戸崎総合高等学校で退職を迎えられることを大変うれしく思っています。
　働くことで人生がより豊かで充実したものに、そして幸せになれるものだと信じています。三年生の皆さんが卒業後のそれぞれの進路において、たゆまぬ努力によって人の役に立ち、人に愛され、幸せな人生を送ることを心から願っております。
　最後に、同窓会の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げると共に、益々のご活躍をご祈念いたします。

同窓会事務局通信

大先輩が卒業した日

　皆さんはご存じでしたでしょうか。駐車場南側の中央にあったヒヨクヒバを。
　通称イトヒバと呼ばれ、ヒノキ科ヒノキ属サワラの変種で、枝が開帳して、細枝が長く下垂し美しい容姿の樹木。
　昭和二十三（一九四八）年、県立江戸崎高等学校が現在地に開校した時からずっと私達を見守っていた大先輩です。
　本校は、ヒマラヤスギ・サルスベリ・スダジイ・サクラ・ビャクシン・モッコク・トウヒ・アラカシ・ツバキ・マテバシイ・モクセイ・モチノキ・ヤマモミジ・アオキ・ドウダンツツジ・ツゲ・サツキ・イチョウ・ヒバ・マツ・ハギ・カイズカイブキ・マキ・ハナミズキ・アセビ・コデマリ・マサキ・クス・シラカシ等々、様々な高・中・低木が混在している樹木の宝庫であります。
　しかし、昨今、各樹木が成長して植栽間隔が狭くなり、相互被圧状態となり、枯死や半枯死また下枝の枯れなどが目立つようになりました。
　そんな中、本校の変遷を見てきた、ヒヨクヒバですが、枝枯れも多くなり、幹の心材腐朽が進行し内部が空洞化して、このままでは倒木の恐れがある状態でした。
　最近では、大型台風の直撃も考えられますので、今回、伐採することとなりました。
　江戸崎高等学校誕生から現在まで、学校の歴史と共にあった大先輩のヒヨクヒバ。
　その大先輩の〝卒業〟は奇しくも十一月十四日の江戸崎総合高等学校の創立記念日でした。先輩、長年見守り頂きまして、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

在りし日の大先輩ヒヨクヒバ（中央）

支部長

江戸崎	清水　明
君賀	朝日向　克夫
高田	岡沢　成美
沼里	宮本　博文
鳩崎	南房　孝一
木原	大橋　幸雄
安中	平野　勝雄
君原	菅原　栄一
朝日	飯野　良治
舟島	平岡　博
阿見	野口　俊一
牛久	飯田　千春
柴崎	有坂　勝芳
太田	玉造　栄
根本	沼崎　好正
大須賀	塚本　憲男
伊崎	根本　浩
十余島	山中　誠
阿波	吉田　武
古渡	内埜　新也
浮島	宮本　和昭
生板	荒井　孝司
長竿	諸岡　周示
源清田	佐川　洋司
金江津	髙橋　稔
長戸	小川　尚敏
八原	湯原　坦
竜ヶ崎	岩田　邦夫
土浦	中澤　得二
水戸	高木　昂

本部役員

会長	山岡　恒夫
副会長	徳田　好廣
〃	根本　弘一
〃	松田　由雄
〃	松本　博志
〃	内埜　知美
〃（校長）	藤田　和文
監事	中島　誠一
〃	岡田　守
顧問	中澤　繁
〃	飯塚　育男
〃	大鳥居　良行
事務局	鳥羽　勝

編集後記

　二〇二〇年、新型コロナウイルスが招いた災難により世の中は一変しました。
　色々な憶測が飛び交い、特定の物資が不足し、医療現場は逼迫し、咳払い一つすることさえ気が引け、人と接することもままならず、出かけることを控えざるを得ない日々。
　東京オリンピックも二〇二一年に延期され、一体どうなってしまうのか、不安な毎日を過ごしています。しかし、過去にも人類は数々のウイルスに立ち向かい、乗り越えてきました。二〇二一年、この状況から抜け出していることを願うばかりです。（卜）